

唱歌♪ 童謡 マップ



発行 **新潟県** 県民生活・環境部 文化振興課

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4-1
TEL 025-280-5138 FAX 025-280-5221 E-mail ngt030120@pref.niigata.lg.jp

詳しくはこちら → [にいがたの唱歌・童謡マップ](#) 検索

※現地訪問や撮影の際は、私有地に無断で立ち入ることや近隣の住民に迷惑をかけることの無いようお願いいたします。

① 汽車

村上市
【作曲者出身地】

♪作詞：乙骨 三郎（おつこさぶろう） ♪作曲：大和田 愛羅（おおわだ あいら）



歌碑所在地 JR村上駅前
この作品を作曲した大和田愛羅は明治19年(1886年)に旧村上藩士の家に生まれ、旧制新潟中学(現:県立新潟高校)から東京音楽学校(現:東京芸術大学)へ進み、戦後は東京芸術大学などで音楽の指導にあたりました。また、作詞者は長年不詳でしたが、近年の研究で乙骨三郎が作詞したとみられています。現在、JR村上駅前の広場には「汽車の碑」が建っています。

- 1.今は山中 今は濱
今は鐵橋渡るぞと
思う間も無く トンネルの
闇を通過つて廣野原
- 2.遠くに見える 村の屋根
近くに見える町の軒
森や林や 田や畠
後へ後へと飛んで行く
- 3.廻り燈籠の 畫のように
變る景色のおもしろさ
見とれてそれと 知らぬ間に
早くも過ぎる幾十里

② 港

旧安田町(阿賀野市)
【作詞者出身地】

♪作詞：旗野 十一郎（はたの じゅういちろう） ♪作曲：吉田 信太（よしだ しんた）

歌碑所在地 阿賀野市立保田小学校 正門横

作詞者の旗野十一郎は旧保田村(現:阿賀野市)に生まれ、『ひつじくさ』の訳詞・作曲をした吉田千秋の大叔父にあたります。初代保田小学校長、保田村戸長をつとめたのち上京し、陸軍参謀本部、文部省唱歌伝習所に仕出し、その後東京音楽学校の国語教師になり、『港』のほか、数々の明治唱歌の作詞も手がけました。十一郎ゆかりの保田小学校の正門横には「港の詩碑」が建っています。



1. 空も港も夜ははれて、
月に数ます船のかげ、
端艇のかよひにぎやかに、
よせくる波も黄金なり。
2. 林なしたる欄に、
花と見まがふ船旗草、
積荷の歌のにぎはひで、
港はいつも春なれや。



⑤ 琵琶湖周航の歌

旧新津市(新潟市)
【作曲者出身地】

♪作詞：小口 太郎（おぐち たろう） ♪原曲：吉田 千秋（よしだ ちかおき）

この作品は大正6年(1917年)、旧制第三高等学校(現:京都大学)のボート部が琵琶湖畔に宿をとった際、部員の小口太郎が披露した詩に当時学生の間で流行していたメロディーに乗せて歌ったことから生まれました。その後楽歌として親しまれ、昭和46年(1971年)には加藤登紀子が歌い国民的大ヒットとなりました。そしてその後、この作品の原曲が「ひつじくさ」であること、吉田千秋が作曲者であることが判明しました。

1. われは湖の子 さすらいの
旅にしあれば しみじみと
のぼる狭霧や さざなみの
志賀の都よ いざさらば
2. 松は緑に 砂白き
雄松が里の 乙女子は
赤い椿の 森蔭に
はかない恋に 泣くとかや
3. 浪のまにまに 漂えば
赤い泊火 なつかしみ
行方定めぬ 浪枕
今日は今津か 長浜か
4. 珊瑚の花園 珊瑚の宮
古い伝えの 竹生島
仏の御手に いだかれて
ねむれ乙女子 やすらげく
5. 矢の根は 深く埋もれて
夏草しげき 堀のあと
古城にひとり 佇めば
比良も伊吹も 夢のごと
6. 西国十番 長命寺
汚れの現世 遠く去りて
黄金の波に いざ漕がん
語れ我が友 熱き心

⑥ 旅愁

新潟市
【作詞者勤務・作詞地】

♪作詞：犬童 球溪（いんどう きゅうけい） ♪作曲：オードウェイ[米国]



歌碑所在地 新潟県立新潟中央高校 前庭
この作品の元歌は、アメリカ人のオードウェイによって作られました。そのメロディーに新たな詩を付けたのが犬童球溪です。『旅愁』は、熊本県出身の犬童球溪が当時の新潟県立高等女学校(現:県立新潟中央高校)の音楽教師として赴任した、明治39年(1906年)に発表されました。現在、県立新潟中央高校の前庭には「旅愁の詩碑」が建っています。

1. 更けゆく秋の夜 旅の空の
わびしき思ひに ひとりなやむ
恋しやふるさと なつかし父母
夢にもたどるは 故郷の家路
更けゆく秋の夜 旅の空の
わびしき思ひに ひとりなやむ
2. 窓うつ嵐に 夢もやぶれ
遙けき彼方に ころろ迷ふ
恋しやふるさと なつかし父母
思ひに浮かぶは 杜のこずゑ
窓うつ嵐に 夢もやぶれ
遙けき彼方に ころろ迷ふ

③ 花嫁人形

新発田市
【作詞者出生地】

♪作詞：落谷 虹児（ふきやこうじ） ♪作曲：杉山 長谷夫（すぎやまはせお）

歌碑所在地 新潟市西堀通り・イタリア軒横

作詞者の落谷虹児は新発田市に生まれ、画家、イラストレーター、詩人、グラフィック・デザイナーなど、一人何役もこなす多才なアーティストでした。この「花嫁人形」は虹児が渡仏する前に少女雑誌へ発表した作品です。杉山長谷夫が曲を付けて大ヒットしたことを、虹児は帰国後に知ったといいます。虹児が幼少時に亡くなった母とともに暮らした場所に近い新潟市西堀通りに、「花嫁人形の詩碑」が建てられています。



1. きんらんどんすの 帯しめながら
花嫁御寮は なぜ泣くのだらう
2. 文金島田に 髪結ひながら
花嫁御寮は なぜ泣くのだらう
3. あねさんごっこの 花嫁人形は
赤い鹿の子の 振袖きてる
4. 泣けば鹿の子の たもとがされる
涙で鹿の子の 赤い紅にじむ
5. 泣くに泣かれぬ 花嫁人形は
赤い鹿の子の 千代がみ衣裳

落谷虹児『花嫁』



④ ひつじぐさ

旧新津市(新潟市)
【作曲者出身地】

♪訳詞：吉田 千秋（よしだちあき） ♪作曲：吉田 千秋（よしだちあき）

『琵琶湖周航の歌』の原曲となったこの作品を作曲したのは、旧新津市（現：新潟市）出身の吉田千秋でした。千秋は『大日本地名辞書』の著者として知られる吉田東伍の次男として生まれました。イギリス童謡を翻訳し自作の曲をつけた『ひつじぐさ』を、大正4年（1915年）に音楽雑誌に発表しました。千秋は肺結核を患っており、『ひつじぐさ』のメロディーが『琵琶湖周航の歌』となったことを知らずに、24歳でこの世を去りました。

1. おぼろつきよの 月あかり
かすかに池の おもにおち
波間にうかぶ かずしらぬ
ひつじぐさをぞ てらすなる
2. 雪かともがふ はなびらは
こがねの薬を とりまきつ
なみのまにまに ゆるげども
はなの心は なみだたず
3. かぜふかばふけ そらくもれ
あめふれなみたて さりながら
あだなみのした そこふかく
萌えいでたりぬ ひつじぐさ



⑦ 砂浜で

新潟市
【新潟市民歌】

♪作詞：富田 良子（とみたよしこ）【補作：宮城二（みやじゅうじ）】
♪作曲：田沢 弘子（たざわひろこ）【補作：芥川 也寸志（あきたがわやすし）】



歌碑所在地 新潟市
音楽文化会館前

「砂浜で」は新潟市の市民歌として、昭和44年11月1日に制定されました。歌詞の補作をした宮城二は旧堀之内町（現：魚沼市）出身の歌人です。平成17年3月29日には、新潟市音楽文化会館の正面玄関前に「砂浜で」の歌碑が建立されました。

1. 砂浜で
小さな小さな ぐみの木が
赤い赤い実をつけて
海に向かってささやいた
ふるさと新潟よいところ
の音 とどろ
海の音 とどろ
2. 砂浜で
小さな小さなすずめさん
黒い黒い目をあげて
空に向かって鳴いていた
ふるさと新潟よいところ
白い雲 はしる
大空を はしる
3. 砂浜で
小さな小さな友だちが
そっとそっと寄りそって
星に向かって語ってた
ふるさと新潟よいところ
朝の音 はしる
沖の星 とどろ

⑧ ルンルンルンルン いちねんせい

新潟市
【市制施行100周年記念チューリップ愛唱歌】

♪作詞 みやう ♪作曲 みやう

新潟市は平成元年（1989年）の市制施行100周年を記念し、「市の花」にチューリップを制定しました。そこで、市の花チューリップにもっと親しんでもらうことを目的に、チューリップを題材にした新潟市の愛唱歌を全国から広く募集し、平成10年（1998年）に「チューリップ愛唱歌」ができました。

1. ルンルンルンルン 朝日がのほろよ 鳥達ピッピーピッピー
ルンルンルンルン 明るくなったら おはよう チューリップ
身体のはして 首をまわせば 朝露キラリ 落ちる ぶるーん
ルンルンルンルン赤白黄色に 紫ストライプ
ルンルンルンルンどんな色でも 今日的一年生
2. ルンルンルンルン 大地の力を貰って ゲングングングン
ルンルンルンルン 光りに向かってのびるよ チューリップ
頬をふくらせ 花びら少し かめげば笑顔が ばあー
ルンルンルンルン赤白黄色に 紫ストライプ
ルンルンルンルンどんな色でも どこでも一年生

※以下3番まで続く



⑨ 砂山

新潟市(寄居浜海岸)
【作詞地】

♪作詞：北原 白秋（きたはらはくしゅう）
♪作曲：中山 晋平（なかもやしんへい）／山田耕筰（やまだこうさく） 他



歌碑所在地 新潟縣護国神社境内
(西海岸公園)

大正11年（1922年）、北原白秋は新潟市で市内の小学校音楽グループの招きにより、新潟師範学校の講堂で童謡音楽会を開きました。その際に寄居浜で見た光景から、この作品の歌詞が生まれました。この作品にはのどかな民謡調の中山晋平作曲のものと、哀愁漂う歌曲風の山田耕筰作曲のものがあります。寄居浜には現在、西海岸公園が整備され、護国神社境内の松林の中に「砂山の詩碑」が建っています。

1. 海は荒海 向こうは佐渡よ
すずめ啼け啼け もう日はくれた
みんな呼べ呼べ お星さま出たぞ
2. 暮れりや 砂山 汐鳴りばかり
すずめちりちり また風荒れる
みんなちりちり もう誰も見えぬ
3. 帰ろ帰ろよ ぐみ原かけて
すずめさよなら さよならあした
海よさよなら さよならあした



⑩ よっしよい節

見附市
【歌詞の題材(風合戦)】

♪作詞：北原 白秋 (きたはらはくしゅう) ♪作曲：町田 嘉章 (まちだかしょう)

昭和4年(1929年)、北原白秋に委嘱した作品「今町風民謡」ができあがり、舞踊家花柳徳次の振り付けにより舞踊が完成しました。この発表にあたり、民謡作曲家町田嘉章の指揮で今町芸妓連が東京愛宕山(NHK)で全国放送を行いました。当時ラジオがある家は今町で10数軒しかなく、放送当日、人々はラジオのある家に集まり放送を聞いたそうです。

1. 越後今町 男の盛り ハヨッショ
 風のいくさは ヨッショイショイ
 意気でやる 意気でやる
 ハアヨッショイヨッショイヨッショイナ
2. ヨイショヨイショと矢声があがる ハヨッショ
 風は今町 ヨッショイショイ
 中之島 中之島
 ハアヨッショイヨッショイヨッショイナ
3. 風よ吹け吹け百枚張よ はづめ ハヨッショ
 晴れよ晴れよ ヨッショイショイ
 守門山 守門山
 ハアヨッショイヨッショイヨッショイナ



※以下続く

⑪ 浜千鳥

柏崎市
【作詞地】

♪作詞：鹿島 鳴秋 (かしまめいしゅう) ♪作曲：弘田 龍太郎 (ひろたりゅうたろう)



歌碑所在地 みなとまち
 海浜公園

作詞者の鹿島鳴秋は大正8年(1919年)、柏崎に住む友人を訪ねました。その際、友人らと裏浜海岸を散歩しながら手帳に書き記したのがこの作品と言われています。大正9年(1920年)、弘田龍太郎によって作曲され、全国的に愛唱されるようになりました。現在、「みなとまち海浜公園」には「浜千鳥の詩碑」が建てられています。

1. 青い月夜の 濱へには
 親をさがして 鳴く鳥が
 波の国から 生まれ出る
 濡れた翼の 銀のいろ
2. 夜鳴く鳥の 悲しさは
 親をたずねて 海越えて
 月夜の国へ 消えて行く
 銀の翼の 浜千鳥



⑫ 夏は来ぬ

旧大潟町(上越市)
【作曲家出身地】

♪作詞：佐佐木 信綱 (ささきのぶつな) ♪作曲：小山 作之助 (こやまさくのすけ)



歌碑所在地 上越市立大潟町中学校
 前庭

この作品は作曲者の小山作之助が先に曲を作り、歌人の佐佐木信綱へ歌詞を付けることを依頼したと言われています。「夏は来ぬ」は文語で、「夏が来た」という意味です。上越市立大潟町中学校の前庭には「夏は来ぬ」の歌碑とともに、小山作之助の胸像が建てられています。

1. 卵の花の 匂う垣根に
 時鳥 早も来鳴きて
 忍音もらす 夏は来ぬ
2. さみだれの そそく山田に
 早乙女が 裳裾ぬらして
 玉苗植うる 夏は来ぬ
3. 橋の 薫るのきばの
 窓近く 蛍飛びかい
 おこたり諫むる 夏は来ぬ
4. 棟ちる 川への宿の
 門遠く 水鶏声して
 夕月すずしき 夏は来ぬ
5. 五月やみ 蛍飛びかい
 水鶏鳴き 卵の花咲きて
 早苗植えわたす 夏は来ぬ



⑬ 春よ来い

糸魚川市
【作詞者出身地・居住地】

♪作詞：相馬 御風 (そうまぎよふう) ♪作曲：弘田 龍太郎 (ひろたりゅうたろう)



歌碑所在地 フォッサマグナミュージアム入口
相馬御風は明治・大正・昭和にわたって活躍した文人です。明治16年(1883年)に旧糸魚川町(現：糸魚川市)に生まれました。「春よ来い」は、大正12年に出版された児童雑誌「金の鳥」3月号への発表が初出とされています。御風は、この「春よ来い」以外にも早稲田大学校歌や「カチューシャの唄」など、たくさんの作詞を手がけました。

1. 春よ来い 早く来い
 あるきはじめてた みいちゃんか
 赤い鼻緒の じょじょはいて
 おんもへ出たいと 待っている
2. 春よ来い 早く来い
 おうちのまへの 桃の木の
 蕾もみんな ふくらんで
 はよ咲きたいと 待っている



⑭ 夏の思い出

旧高田市(上越市)
【作詞者出生地】

♪作詞：江間 章子 (えましょうこ) ♪作曲：中田 喜直 (なかだよしなお)

作詞者の江間章子は大正2年(1913年)に旧高田市(現：上越市)に生まれた詩人です。少女時代を岩手県で過ごし、昭和11年(1936年)に詩集「春への招待」で詩壇に登場、以後詩作、訳詞、歌曲作詩など多彩な活動を展開しました。昭和24年(1949年)、NHKラジオで放送されたことで注目を集め、尾瀬が全国に知られるきっかけとなりました。

1. 夏がくれば 思い出す
 はるかな尾瀬 遠い空
 霧のなかに うかびくる
 やさしい影 野の小径
 水芭蕉の花が 咲いている
 夢見て咲いている 水のほとり
 石楠花色に たそがれる
 はるかな尾瀬 遠い空
2. 夏がくれば 思い出す
 はるかな尾瀬 野の旅よ
 花のなかに そよそよと
 ゆれゆれる 浮き島よ
 水芭蕉の花が 匂っている
 夢みて匂っている 水のほとり
 まなこつぶれば なつかしい
 はるかな尾瀬 遠い空



⑮ 鉄道唱歌 第四集北陸編

♪作詞：大和田 建樹 (おおわた たてき) ♪作曲：納所 辨次郎 (のうしよべんじろう)

鉄道唱歌とは鉄道沿線の駅名と風物を歌い込んだもので、地理教育を目的に、明治33年(1900年)に第一集「東海道編」が出版されました。続いて全国各地を歌う各編が刊行されました。もともと子どもの学習のために作られた曲でしたが、大人の間でも流行し、親しまれました。新潟県は第四集「北陸編」に登場しています。

31. 豊野と牟礼と柏原
 ゆけば田口は早越後
 軒まで雪の降りつむと
 ききし高田はここなれや
32. 雪にしるしの竿たてて
 道おしえしも此あたり
 ふぶきの中にうめらるる
 なやみはいかに冬の旅
33. 港にぎわう直江津に
 つきて見そむる海のかお
 山のみなれし目には又
 沖の白帆ぞ珍しき
34. 春日新田 犀潟を
 すくれば来る柿崎の
 しぶしぶ茶屋は親鸞の
 一夜宿りし跡と聞く
35. 鉢崎すぎて米山の
 くぐるトンネル七つ八つ
 いずれは広きわたの原
 佐渡の国までくまなし
36. みわたす空の青海川
 おりては汐もあみつべし
 石油のいずる柏崎
 これより海とわかれゆく

13 弥彦山

旧大潟町(上越市)
【作詞・作曲者出身地】

♪作詞: 小山 作之助 (こやまさくのすけ) ♪作曲: 小山 作之助 (こやまさくのすけ)

歌碑所在地 彌彦神社ロープウェイ山道入口

明治34年(1901年)に、新潟市で開催された第一回共進会の折、特に新潟県が東京音楽学校に委嘱して作成されたと言われています。作詞作曲は旧大潟町(現:上越市)出身の小山作之助によるものとみられます。文部省制定小学校唱歌として広く愛唱されました。この作品の歌碑が彌彦神社へ奉納され、弥彦山ロープウェイへの山道入口近くに建てられています。



- 越路の国に名も高き 弥彦の山を見わたせば
双嶺雲にそびえ立つ 貴く清きながめかな
- 前に渦巻く日本海 沖辺に浮ぶ佐渡ヶ島
遙かに眉を引ききたるは 遠き陸羽の山々か
- 海風清く袖吹きて 浮世のちりも通い来ず
思へばげにも御神の 宮居座します弥彦山



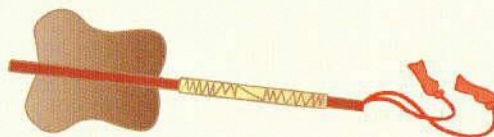
14 川中島

旧大潟町(上越市) / 旧安田町(阿賀野市)
【作曲者出身地 / 作詞者出身地】

♪作詞: 旗野 十一郎 (はたのじゅういちろう) ♪作曲: 小山 作之助 (こやまさくのすけ)

作者者の小山作之助は旧大潟町(現:上越市)に生まれ、東京音楽学校(現:東京芸術大学)の前身である文部省音楽取調掛に入りました。卒業後も母校にとどまり、35歳で教授となりました。作之助は生涯で数多くの作曲を行いました。また、音楽教育への発展に力を注ぎ、日本教育音楽協会初代会長などをつとめました。「荒城の月」の作曲者である滝廉太郎の才能を見出して育てたのは作之助でした。

- 西条山は 霧ふかし
筑摩の河は 浪あらし
遙に聞ゆる 物音は
逆まく水か つわものか
昇る朝日に 旗の手の
きらめくひまに くるくるくる
- 車がかりの 陣ぞなえ
めぐる合図の 関の声
あわせる甲斐も あらし吹く
敵を木の葉と かきみだす
川中島の 戦は
語るも 聞くも 勇ましや



15 雪山讃歌

笹ヶ峰(妙高市)
【京大ヒュッテ所在地】

♪作詞: 西堀 栄三郎 (にしほり えいざぶろう) 他 ♪原曲: アメリカ民謡

大正末から昭和の初期にかけ、毎年正月に京都大学の学生らがスキー合宿に集まった際にアメリカ民謡「オー・マイダーリン・クレメンタイン」の替え歌として歌ったのが始まりとされます。そして京大高山岳部歌として歌い継がれ、後年ダークダックスが歌ったことで一躍有名になりました。妙高高原笹ヶ峰には「雪山讃歌碑」が建っています。

- 雪よ岩よ われらが宿り
俺たち町には 住めないからに
- シールはずして パイプの煙
輝く尾根に 春風そよぐ
- 煙い小屋でも 黄金の御殿
早く行こうよ 谷間の小屋へ
- テントの中でも 月見はできる
雨が降ったら めればいいさ
- 吹雪の日には ほんとに辛い
アイゼンつけるに 手がこごえるよ



※以下9番まで続く

県内各所

【歌詞の題材(県内各駅)】

吉田 信太(よしだ しんた)

- | | | |
|---|--|--|
| 37.
安田 北條 来迎寺
宮内すぎて長岡の
町は名だたる繁花の地
製油の煙そらにみつ | 40.
加茂には加茂の宮ありて
木の間の鳥居いと清く
矢代田駅の近くには
金津の滝の音たかし | 43.
おるればわたる信濃川
かかれる橋は万代の
名も君が代とときわにて
長さは四百数十間 |
| 38.
汽車の窓より西北に
ゆくゆく望む弥彦山
宮は国幣中社にて
参詣男女四時たえず | 41.
十一年の御幸の日
かたじけなくも御車を
とどめ給いし松かげは
今この里にさかえたり | 44.
川のかなたは新潟市
舟ゆく水の便よく
わたせる橋をかぞうれば
およそ二百もありとかや |
| 39.
弥彦にゆくは三條に
おりよと人はおしえたり
吾身は何も祈らねど
いのりは君が御代のため | 42.
もみじは新津 秋葉山
桜は亀田 通心寺
わするな手荷物傘靴
はやこなるぞ沼垂は | 45.
春は白山公園地
一つににおう梅桜
夏は涼しき日和山
鯛つる舟も目の前に |

- | | |
|---|---|
| 46.
汽船の煙海をぞめ
商家の軒は日をおおう
げにも五港の一つとて
戸数万余の大都会 | 49.
波路やすく直江津に
かえりてきけば越中の
伏木にかよう汽船あり
いざ乗りかえて渡海せん |
| 47.
新潟港を舟出して
海上わずか十八里
佐波に名高き釜山を
見てかえらんも益あらん | 48.
佐波には真野の山ふかく
順徳院の御陵あり
松ふく風は身にしてみて
袂しほらぬ人もなし |

※合計72番より一部抜粋

